

ブレーマーハーフェン 志賀トニオ氏

思い出のワイマール時代の写真



ゲーテとシラー像と劇場



稽古場を訪ねて来たリンデさんと



住まいを遠景に

ドイツの8月は年度の始まり。ブレーマーハーフェン歌劇場も6週間のお休みを経ていよいよ新シーズンがスタートします。今シーズン最初の演目はプッチーニ作曲“トゥーランドット”です。この作品は私が劇場のキャリアを開始した時に最初に取り組みました。そこで今回は番外編として私がドイツでのキャリアをスタートするまでの道程をお送りしたいと思います。

当時私はロストック (Rostock) 音大の指揮科に在籍していました。大学3年生に入学し、2年間のカリキュラムが終了間近でした。ドイツの音大生は4年生の時に卒業を待たずにオーディションを受け始める事が多く、私も卒業試験の準備と並行してオーディションの準備に取り掛かりました。ドイツの指揮科の学生は基本的に指揮者としていきなり就職する事は稀で、殆どの場合まずはコレペティトアとして劇場に就職します。したがって必然的にコレペティトアとしての力量が将来を左右するため、ドイツの指揮科は入試もピアノ科並みのレベルが要求され、大学のカリキュラムも劇場での仕事やオーディションを念頭にピアノを弾く時間が大部分を占めています。私もロストック音大に入学する前に毎日ピアノを猛練習したものです。そしていざオーディションを受けたい！といつてもそう簡単に受けさせてもらえないのがドイツの難しい所です。ドイツの劇場では履歴書を出した後に審査を通過し招待状を貰う必要があります。その招待状を貰うのが大変難しいのです。その条件は学歴はもちろんのこと、年齢や国籍も審査対象となり、30歳を越えると就職が難しくなってくると言われています。音大に入学する時にも年齢制限がある学校が多く、入学時で29歳であった私は受け入れてくれる学校を探すのに苦労しました。そのような経緯があったため、大学4年生であった私は大学院に行く事はせずに、少しでも早くオーディションを受け始める事にしたのです。しかし、2年弱しかドイツの音大に在学していなかった私は、4年ないし、大学院も含めて6年在学していたであろう他の学生に比べて学歴も劣るし、人間関係も構築できていないと感じていました。

ドイツでもコネ（コネクション）というのは重要で、その力が他の学生より劣ると感じた私は、直接劇場に履歴書を送っても審査を通るのが難しいと考え、まずは音楽事務所にオーディションに行く事にしました。

ドイツには公立の音楽事務所があり、その音楽事務所に所属する事で劇場からの招待状を貰う確率を上げようと考えたのです。さっそくロストックから最寄りのベルリンの事務所に電話をかけ、アポをとってオーディションを受けに行ってきました。そして首尾よく合格！そしてその1週間後にはさっそくその事務所を通して劇場のオーディションの話が舞い込んできました。場所はノイシュトレーリッツ（Neustrelitz）。ロストックとベルリンの間の町で、ロストックからは電車で1時間程。駅から劇場までは徒歩15分程。小さいけど素敵なおとぎ話に出てくるような劇場でした。人生初の劇場でのオーディションはあえなく撃沈。自分としてはやり切った感があったので満足していましたが、やはりそんなに簡単ではありませんでした。オーディションの後は劇場の近くの湖で気晴らし。

とっても素敵な所でした。するとその1週間後にはさらに次のオーディションの話が舞い込んできました。しかも今度は2つの劇場。一つはハレ（Halle）という町の劇場。もう一つはワイマール（Weimar）。ハレはノイシュトレーリッツの時と同じくコレペティアの仕事でしたが、ワイマールは合唱アシスタントの仕事で、しかも専属契約ではなく、とりあえず3か月の契約との事。専属契約の場合はまず2年契約で、その後1年ごとに契約が延長されていくのですが、短期契約は色々な事情（病気や妊娠等）があり、受験する時には専属契約よりも競争率が下がる為、音大生が最初に就職する時にはそこを狙って契約を勝ち取り次に繋げていく事ができます。

しかしワイマールの劇場は歴史がある所謂名門です。しかもハレとワイマールとオーディションの日程が二日続きでした。どちらかにしほるべきか、両方受けるべきか大変悩みました。なぜなら、コレペティアと合唱アシスタントはオーディションの内容が全く違うのです。その両方を準備する事で、二兎を追う者は一兎をも得ずにならないのか。しかし招待状を貰う事自体難しいのだから、キャンセルするのもったいないと感じた私は両方受ける事に。

幸いハレのオーディションの内容はノイシュトレーリッツの時とあまり変わらなかったので、薄々チャンスを感じていたワイマールのオーディションの準備に力を入れました。

さすが伝統ある劇場のオーディションで、トスカ、ラ・ボエーム、トゥーランドット、カルメン、神々の黄昏等、とても難易度の高い合唱箇所が課題でした。ロストックからハレまでは電車で5時間程。ヘンデル生誕の町であり、大変立派な大きな劇場でした。オーディションでは結果がすぐに知らされず、一喜一憂する間もなくそのままワイマールへ移動。夜7時くらいだったと思いますが劇場に行ってみました。オーディションは次の日の朝でしたが、ひょっとして少しピアノを練習させてもらえるかと思い楽屋口の守衛さんの所に行くと、なんと合唱監督を呼んでくれました。そして次の日のオーディション会場のピアノで練習して良いと言ってくれたのです！何か縁を感じた私は晴れて次の日のオーディションに合格し、その場で契約書にサインし、その数日後にはさっそく仕事が始まるのでした。結局当初の3か月契約が2度更新され1年間働く事が出来、大変レベルの高い環境の中素晴らしい経験を積む事ができました。